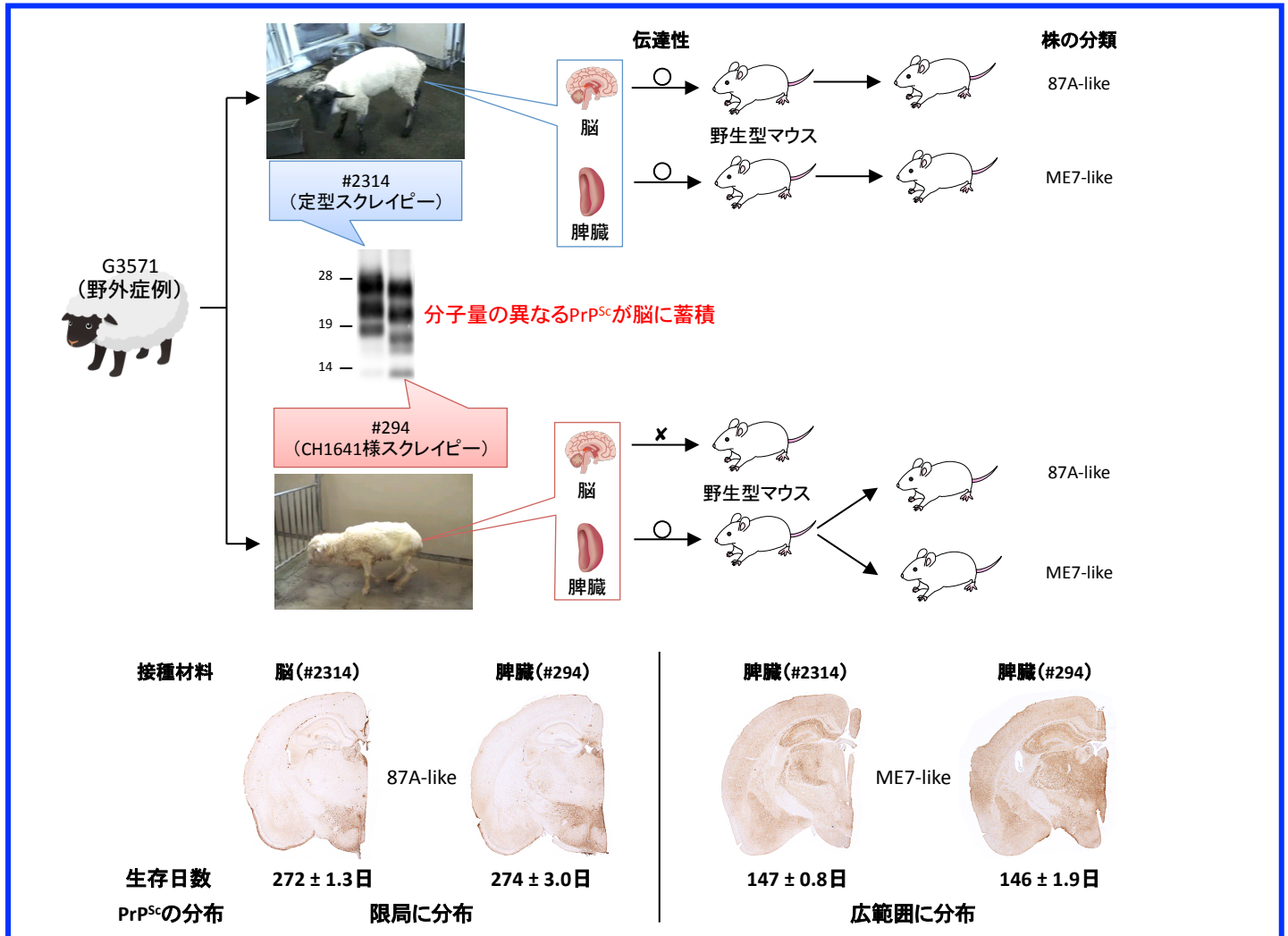


## プリオン感染動物の体内におけるプリオン多様性とそれらの相互作用が病態に及ぼす影響の解析

研究開発分担者: 国立研究開発法人農研機構動物衛生研究所インフルエンザ・プリオン病研究センター 宮澤光太郎



### 解説

1. 定型スクレイピーを発症したヒツジ(#2314)からは2種類の定型スクレイピープリオンが分離された。
2. CH1641様スクレイピーを発症したヒツジ(#294)の脾臓からも#2314から分離された株と同じ性状を示す2種類の株が分離された。
3. 定型スクレイピープリオンとCH1641様スクレイピープリオンは、感染動物の脳や末梢組織においてヘテロな状態を保っていることが示唆された。